

『庭の穴の謎』

桑原 紀子

ある時、庭に、針金で刺した跡のような小さな穴が沢山あるのに気がつきました。直径1ミリ位、20個ほどがかたまっています。何かの道具で突き刺したのか、それとも昆虫の仕業なのか不思議でしたが、謎のままでした。

7月の半ば、庭を歩くと、足元から小さな虫がいつせいに飛び跳ね、驚かされました。素早く逃げるのですが、よく見ると、1センチ足らずで、細長い手脚、翅もあるようです。跳ねるのをやっと写真に撮り、調べてみたら、東京ヒメハンミョウという甲虫でした。

ハンミョウの仲間は地上を徘徊して、餌になる虫を捕食します。幼虫は地面に開けた縦穴の奥に潜み、地上を通る小さい虫を捕まえて餌にします。謎の穴は、東京ヒメハンミョウの幼虫の巣穴だったのです。穴の奥で幼虫時代を過ごし、7月、羽化して地上に現れたのです。それから1週間あまり、ヒメハンミョウたちは、私が歩くと足元から飛び跳ね、交尾する姿も見せてくれました。



成虫の時期は短く、8月に入ると、もうヒメハンミョウたちの姿は見られなくなりました。

そして数日後、地面には、新しく出来た1ミリよりもっと小さな穴が無数に並んでいます。卵から孵化した幼虫たちが、一匹ずつ針の先ほどの穴を掘って棲みついたのです。これから穴は、幼虫の身体に合わせて少しずつ大きくなっていくはずですが。

庭で、東京ヒメハンミョウがこんな暮らしをしていたなんて、ほんとにびっくりしました。

ハンミョウの幼虫をニラムシと呼ぶそうです。巣穴にニラの葉を差し込み、幼虫が餌と思って食いつくの釣って遊んだと、農家のおばさんが話してくれました。身体を反らせて反転して食いつくそうです。ヒメハンミョウは、ハンミョウに比べると小さいので、ニラより細い草なら釣れるかもしれません。

巣穴から獲物を待ち伏せている幼虫たち、ちょっと可哀想だけど、やってみたいニラムシ釣りの遊びです。